



## 本日の内容と目的

(内容)

1. レファレンス・サービスとは
2. レファレンス・ツールとは
3. レファレンス・ツール紹介（例題）
4. 演習
5. 質疑応答

(目的)

- ▶ 人文分野のレファレンス・サービスの特徴を把握する。
- ▶ 多種多様なレファレンス・ツールを使った調べ方を身に着ける。

2

### 1. レファレンス・サービスとは (1) 定義

▶ 図書館員が、図書館利用者に対し、求められている情報や資料を提供・提示することによって援助すること。  
(日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』丸善, 2013, p.255.)

※資料・情報源に答えさせる (refer) のがポイント。

3

### (2) レファレンス・サービスの種類

(国立国会図書館の場合)

- ▶ 利用案内：閲覧、複写、図書館間貸出し、その他国立国会図書館の利用案内
- ▶ 所蔵調査：資料を国立国会図書館で所蔵しているかどうかの調査
- ▶ 所蔵機関の調査：当館以外の所蔵機関の紹介
- ▶ 書誌的事項の調査：書名、著者名、出版事項、巻号、収載ページなどの調査
- ▶ 簡易な事実調査：参考資料を利用して行う事実調査
- ▶ 検索の支援：資料の検索方法についての援助
- ▶ 文献紹介：特定主題に関する図書館資料の紹介
- ▶ 類縁機関案内：適切な回答を得られる他の機関などの紹介

4

### ※回答を行わない事項など

▶ 古書・美術品などの鑑定、良書推薦、学習課題・懸賞問題に関する調査、身上・医療・法律相談、文献の解説・翻訳、プライバシー侵害にあたる調査は、回答を行わない。

▶ 著しく経費や時間を要する調査、調査研究の代行、合理的な検索手段のない調査は、回答を断ることができる。

5

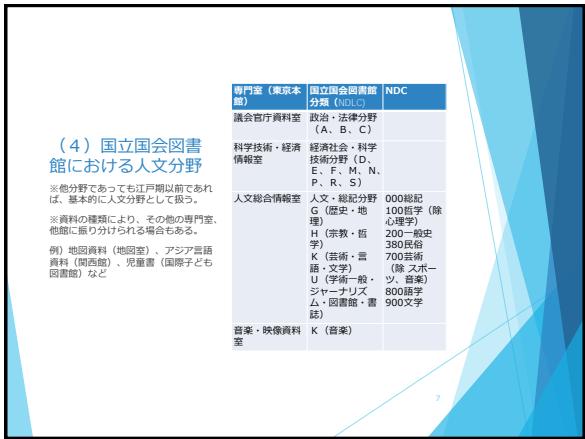
### (3) レファレンス・プロセス\*

▶ 質問を受けてから回答までの流れ  
→質問内容の確認 →探索方針の検討 →検索実行  
→情報（原）の入手 →回答・提供（→事後処理（統計、記録、情報共有））

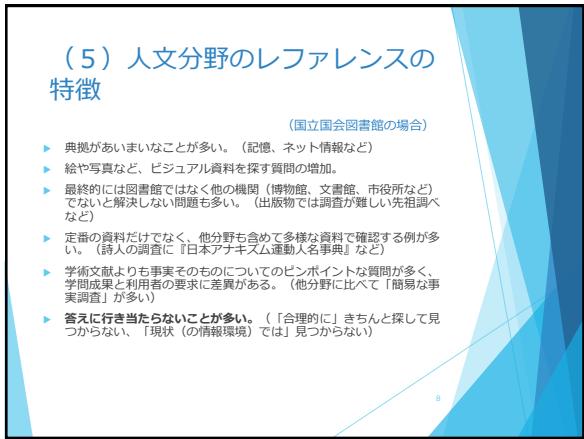
自能のコレクションに精通し、使うべきツールを直観的にすぐ判断できることは大事  
△何を調べる？時代は？場所は？主題は？キーワードは？  
△どのツールを使うか？何から調べられるか？何を調べられないか？

\* 長澤雅男・石黒祐子『問題解決のためのレファレンスサービス』新版、日本図書館協会、2007, pp.57-58.

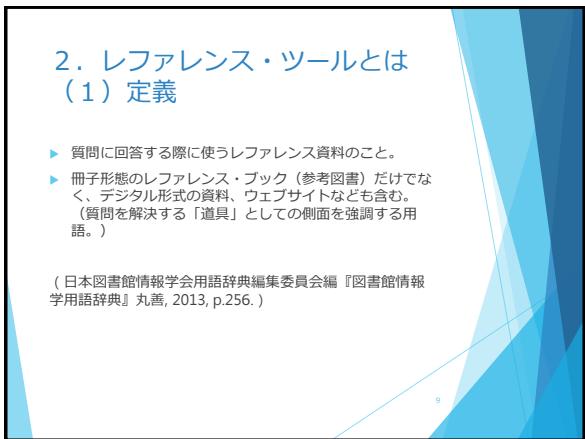
6



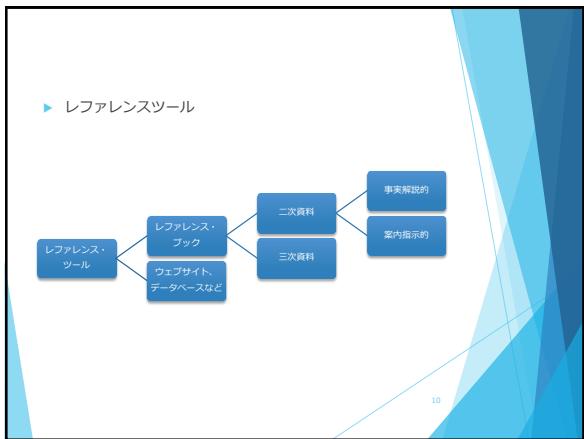
7



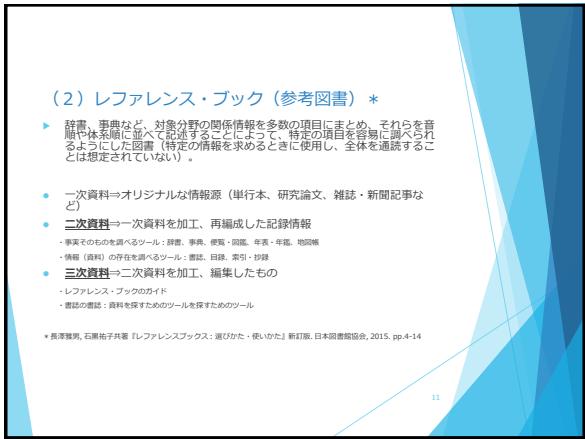
8



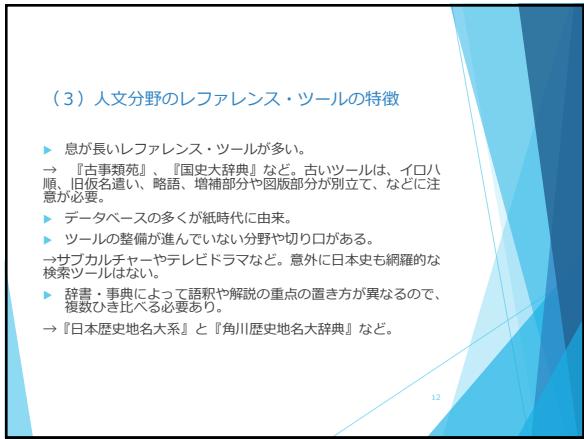
9



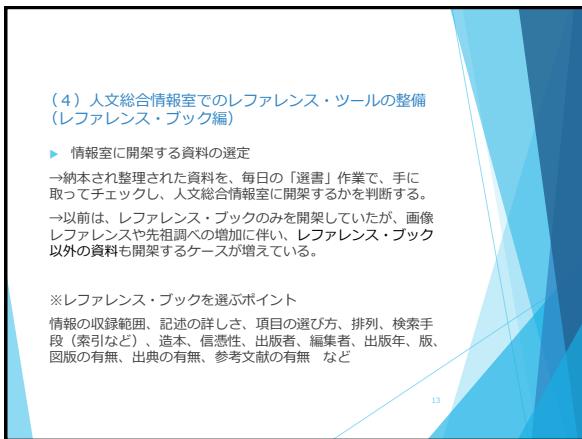
10



11



12



13

#### (4) 人文総合情報室でのレファレンス・ツールの整備 (レファレンス・ブック編)

##### ▶ 情報室に開架する資料の選定

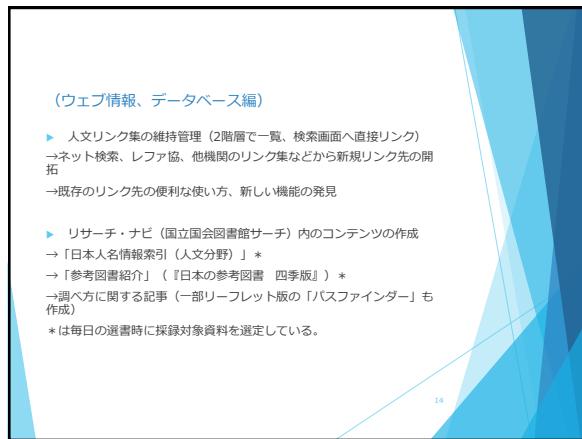
→納本され整理された資料を、毎日の「選書」作業で、手に取ってチェックし、人文総合情報室に開架するかを判断する。

→以前は、レファレンス・ブックのみを開架していたが、画像レファレンスや先祖調べへの増加に伴い、レファレンス・ブック以外の資料も開架するケースが増えている。

##### ※レファレンス・ブックを選ぶポイント

情報の収録範囲、記述の詳しさ、項目の選び方、排列、検索手段（索引など）、造本、信憑性、出版者、編集者、出版年、版、図版の有無、出典の有無、参考文献の有無など

13



14

#### (ウェブ情報、データベース編)

##### ▶ 人文リンク集の維持管理（2階層で一覧、検索画面へ直接リンク） →ネット検索、レファ協、他機関のリンク集などから新規リンク先の開拓

→既存のリンク先の便利な使い方、新しい機能の発見

##### ▶ リサーチ・ナビ（国立国会図書館サーチ）内のコンテンツの作成

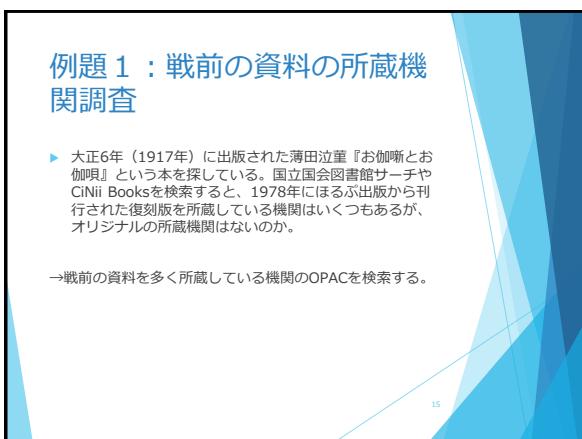
→「日本人名情報索引（人文分野）」\*

→「参考図書紹介」（『日本の参考図書 四季版』）\*

→調べ方に関する記事（一部リーフレット版の「パスファインダー」も作成）

\*は毎日の選書時に採録対象資料を選定している。

14



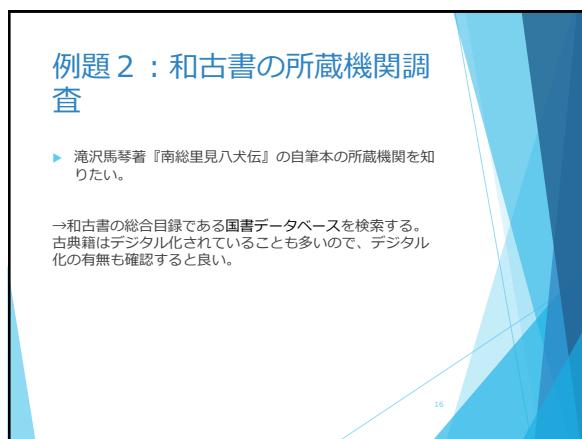
15

#### 例題1：戦前の資料の所蔵機関調査

▶ 大正6年（1917年）に出版された薄田泣草『お伽噺とお伽唄』という本を探している。国立国会図書館サーチやCiNii Booksを検索すると、1978年にはるぶ出版から刊行された復刻版を所蔵している機関はいくつもあるが、オリジナルの所蔵機関はないのか。

→戦前の資料を多く所蔵している機関のOPACを検索する。

15



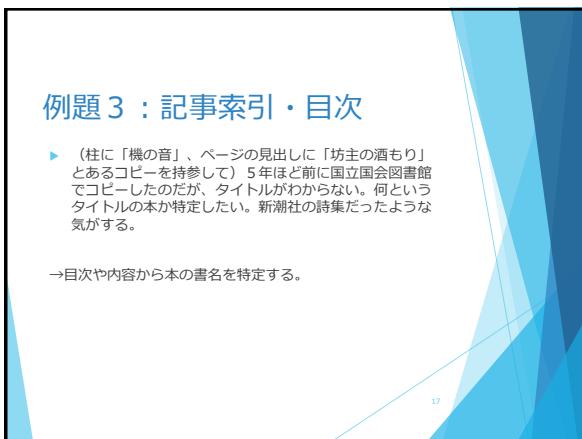
16

#### 例題2：和古書の所蔵機関調査

▶ 滝沢馬琴著『南総里見八犬伝』の自筆本の所蔵機関を知りたい。

→和古書の総合目録である国書データベースを検索する。古典籍はデジタル化されていることも多いので、デジタル化の有無も確認すると良い。

16



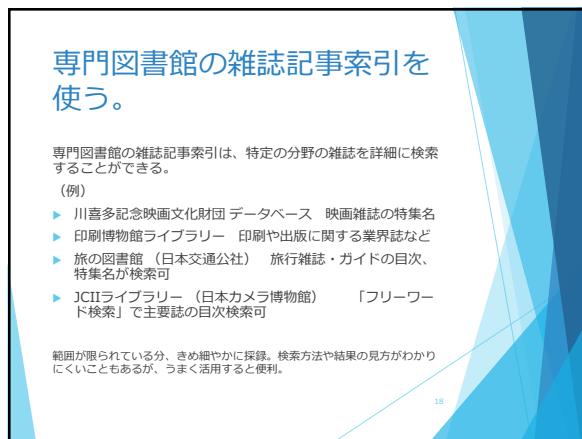
17

#### 例題3：記事索引・目次

▶ （柱に「機の音」、ページの見出しに「坊主の酒もり」とあるコピーを持参して）5年ほど前に国立国会図書館でコピーしたのだが、タイトルがわからない。何というタイトルの本か特定したい。新潮社の詩集だったような気がする。

→目次や内容から本の書名を特定する。

17



18

#### 専門図書館の雑誌記事索引を使う。

専門図書館の雑誌記事索引は、特定の分野の雑誌を詳細に検索することができる。

（例）

- ▶ 川喜多記念映画文化財団 データベース 映画雑誌の特集名
- ▶ 印刷博物館ライブラリー 印刷や出版に関する業界誌など
- ▶ 旅の図書館（日本交通公社） 旅行雑誌・ガイドの目次、特集名が検索可
- ▶ JCIライブラリー（日本カメラ博物館） 「フリーワード検索」で主要誌の目次検索可

範囲が限られている分、きめ細やかに探録。検索方法や結果の見方がわかりにくいうこともあるが、うまく活用すると便利。

18

## 例題 4：人物調査・人物文献索引

- ▶ 幕末の佐渡で国学者をしていた蔵田茂樹という人物について書かれている文献はないか。

→新潟の人物文献目録・データベースはないか。国立国会図書館の「地方史に関する文献を探すには(主題書誌)」を確認する。

19

## 例題 5：文学・翻訳書誌

- ▶ 源氏物語はチェコ語に翻訳されているか。されているようならその所蔵機関を知りたい。

→日本文学の外国語訳を調べるときは何を用いるべきか。

20

## 演習問題

- ▶ 演習問題1～8のうち、自由に3問選択して挑戦してください。
- ▶ 最後に全ての問題の回答例を配布します。

21

## 演習 1：戦前の和雑誌の所蔵機関調査

- ▶ 雑誌『史談文芸』(大正6年)を探している。4,5月号に鳥居龍藏「オロッコ族」が掲載されているらしい。

22

## 演習 2：和古書（複製）の所蔵機関調査

- ▶ 『範永朝臣集』の宮内庁書陵部本を影印でみたい。以下のものは、口絵写真が少しあるだけで、中身は活字だった。

『桂宮本叢書：図書寮所蔵』 第3巻 (私家集 第3) 宮内庁書陵部編、養徳社、1952

23

## 演習 3：内容から本を探す

- ▶ ある短編小説が、なんの単行本に入っているか知りたい。1970年代～80年代の作品で、タイトルは「桜壳（さくらうり）」。著者は覚えていない。

24

## 演習4：宗教関係の資料の所蔵機関調査

- 図書か雑誌記事かわからないが、久野芳隆「浄土観念の吟味と仏の弁証法的考察」の所蔵機関を知りたい。

25

## 演習5：人物に関する文献紹介

- 長州出身で伊藤博文らとともに英国留学した山尾庸三（子爵）の肖像はないか。

26

## 演習6：演劇に関する簡易な事実調査

- 昭和14年3月初演の「ふるさと紀行」という演劇について調べている。配役や公演日数などを知りたい。

27

## 演習7：美術に関する簡易な事実調査

- 洋画家 詹（はざま）伊之助が二科賞を受賞した作品名を知りたい。

28

## 演習8：古写真に関する所蔵機関調査

- 明治時代の東大寺大仏殿の写真を見たい。確か、明治後期に修復をしているはずなので、修復前のなるべく古い写真が見たい。

29

ありがとうございました。

30